

# 頭陀袋

(36) 平成二十七年七月号

発行 中山かんのん

恩林寺



中山中学下、電話三四一一二四五

お母さんとの別れ

お坊さんという立場から、私たちはいろいろなお別れの場面に立ち会わせていただいております。実は最近、市内のお寺様の檀家さんのお葬式にお参りさせていただきました。お通夜が終わって喪主の方のご挨拶

がありました。が、大変、丁寧なおことばがあり、故人を思う気持ちが言葉となつてあらわされ、故人が平生、皆さんに慕われていたのだな。と、感銘致しました。寺に帰りまして香典返しについておりました会葬御礼のはがきにはこんなことが綴つてありました。\*「愛情に包まれた幸せな日々：ありがとう」

新聞用のポケットの付いた椅子カバーや、柔らかなコタツの上掛け。我が家のことかしこに残されているのは、母手つくりの手芸品。そつと手にとればぬくもりとともに愛情が伝わってくるような気がいたします。いつもちくちくと縫い物に励み暮らしの彩りを添えていた母。おおらかで広い懐や明るい笑顔は皆の心のよりどころでした。

私たち子供は、母に厳しくしかられた記憶はなく孫たちにとつてもやさしいおばあちゃん。一年ほど前に病がわかつてからでしょうか、子、孫、家族そろって温泉旅行に出かけました。名湯に癒され美しい景色を目を細めそしてたくさんの笑顔に囲まれて…。あの時のしあわせそうな母の表情を生

涯忘ることはありません。

入院中も、幼い孫の名前を呼び、最後まで家族を気遣つてばかりでした。そつとあたたかな手を添え今まで皆を守ってくれた母に、今、心から「ありがとう。」を、伝えます。子供一同

妻○○ゆみ子

は平成二十七年三月二十八日満六十五歳にて真心を尽くした生涯の幕を

下ろしました。頬笑みの花咲く人生と共に歩んでくださった皆様へ、賜りましたご厚情に深く感謝申し上げます。本日の会葬まことにありがとうございました。

喪主○○○○

外 親戚一同

会葬御礼の葉書には、会葬御礼というタイトルは無く、思いを込めて、と、なつておいました。故人の娘さんがしたためられたものでしょう。また、喪主である旦那さんのひとこと。短く意をつくしています。

ひごろのお母さんの姿が目に浮かぶようです。最近の六十五歳はまだまだ早死です。短い生涯を力いっぱい生き抜かれたことでしよう。ご家族の悲しみはいかばかりかと思いました。

大切な人をお送りする一つの形として、心に残つたお話を紹介いたしました。

\*

恩林寺お施餓鬼法要のお知らせ

すでにみな様方にはご案内状を差し上げておりますが、昨年にひき続き左記の通りお施餓鬼法要を務めさせていただきます。皆様ご多用中のところ恐縮ながら、ぜひ、お参りくださいますようご案内いたします。

記

日時 六月二十八日（日曜日）午前十一時  
場所 恩林寺本堂